

JCBA日本コミュニティ放送協会関東地区協議会 防災連携と臨時災害局

A network made of people or organizations linked by some type of social relationship.

FM小田原株式会社
代表取締役 鈴木伸幸

2023年 初夏

JCBA日本コミュニティ放送協会&関東地区協議会について

1992年の制度化から31年経ったコミュニティ放送

FMを使用する特定地上基幹放送事業者は「県域放送」と「コミュニティ放送」に区分されています。

コミュニティ放送は放送エリアが地域（市町村単位）に限定されるため、地域の商業、行政情報や独自の地元情報に特化し、地域活性化に役立つ放送を目指しています。

日本コミュニティ放送協会もその前身の「全国コミュニティ放送協議会」（会長 木村太郎）1994年5月設立から29年になります。設立時9局で初まったJCBAも現在会員社数：245（株式会社等：236、NPO：9）になっています。JCBAは、総務省・関係機関が認める唯一の団体です。対外的にコミュニティ放送業界の前進につながる折衝を行うことをはじめ、会員の皆さまの発展につながる組織にすべく、事業の計画、実行に尽力しています。

JCBAは全国11地区の協議会があります。 現在関東地区では53社が加盟しています。

2023.3月 総務省関東総合通信局は、一般社団法人日本コミュニティ放送協会（JCBA）関東地区協議会との間で、デジタル時代における臨時災害放送局等に関する協力体制に関する協定を締結しました。

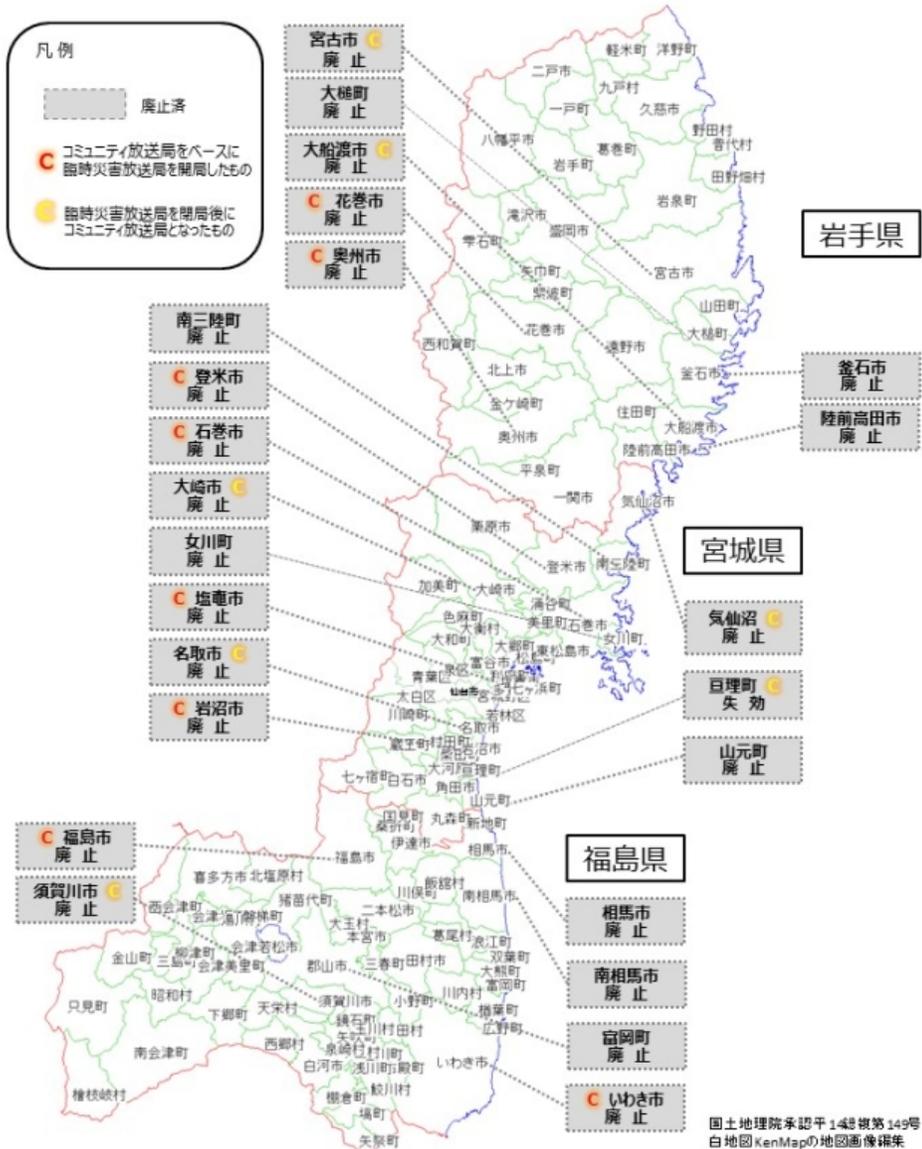
主な協力内容は

- 臨時災害放送局等（※）の開設及び放送を遂行するために必要となる機材の貸与や技術者等人員の派遣
- 一般社団法人日本コミュニティ放送協会が運営する「JCBAインターネットサイマルラジオサイト」を利用した臨時災害放送局等による放送内容の配信

（※）本協定の「臨時災害放送局等」とは、災害時にその被害を軽減するために、被災地の地方公共団体等によって臨時に開設されるFM放送局（臨時災害放送局）及びその訓練を目的として開設されるイベント局、実験試験局をいいます。

東日本大震災に際し開設された臨時災害放送局の開設状況図

平成31年1月8日現在
東北総合通信局



東日本大震災によって甚大な被害に遭われた市町村では、災害情報、被災者支援情報、生活関連情報等を提供する **24局の臨時災害放送局が開設 CFMベース8局**

臨時災害放送局とは

- ① 臨時災害放送局は、災害時における災害情報、被災者支援情報、生活関連情報等を提供するために、自治体等が開設する臨時のFM放送局です。
- ② 免許手続は、緊急時は臨機の措置により口頭で可能です。
- ③ 迅速に開設し、効果的に運用するためには、以下の準備が重要です。

- 首長等の迅速な意思決定
 - 機材、電源の確保、設置場所等についての事前検討
 - 放送エリアの確保
 - 放送内容の検討
 - 他地域からのアナウンサー支援はできるが、地名土地勘がわからない
- 情報収集手段、地元もしくは行政の方のアナウンサー確保
- 関係者間のルール化、平時から、地元のコミュニティ放送局との協力関係の確立
- ④ 防災情報は、臨時災害放送局のほか、防災行政無線や携帯メール等の

複数メディアによる提供が効果的です。複数メディアでの情報配信は、Lアラート（災害情報共有システム）の導入等 **現在コミュニティFMが増えている要因のひとつ**

事例 台風15号 かずさエフエム 木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市エリア

千葉県内の状況

2019年9月9日(日)5時千葉上陸千葉県内で送電塔2本と電柱84本が倒壊したほか、推計約2000本の電柱が損傷。神奈川県と千葉県を中心に9日時点で93万戸が停電した。最長2週間。

その間、通信網が途絶した地域からは被害の報告が出来ず、状況が正確に把握できていない状態が続いた。

かずさエフエム演奏所 STUDIO



中継回線 有線IP-VPN
台風通過の3日後に回線不能
送信所が停電のため発電機を使用

かずさエフエム鹿野山送信所



送信所 君津市鹿野山ゴルフ倶楽部内



かずさエフエムの被災状況

9月9日日曜日から12日水曜日まで木更津駅前の演奏所から放送を続け水曜日の夕方より送信所との光通信回線が途絶える。

送信所を送信アンテナ脇の建屋に移し朝7時から夜19時までの生放送を継続。

電話回線が生きていたため自治体からの情報をFaxにて収集。関係各所とアナログ電話をつなぎ生出演放送を続ける19日夕方より光回線は仮復旧し、従来の演奏所より放送を再開。

事例 台風19号 FMだいが 茨城県久慈郡大子町

FMだいが

東日本大震災を受け、各自治体が防災計画を策定する中、大子町は町内への一斉情報伝達手段が無かった。同報無線などとの比較の結果、コミュニティ放送局の開設に至ったため、町内における情報インフラとしての性格を強く持っている。各世帯には緊急告知FMラジオを配付しています。

FMだいがの被災状況

2019年10月12日(日)久慈川及び押川の氾濫のため演奏所が浸水。23:01放送は困難と判断し放送を停止。スタジオ機材は浸水により全損。

翌日、水戸のコミュニティFMが機材を持ち駆けつけ臨災局として放送開始、19日まで継続。

中継回線及び送信所に被害はなかったため演奏所側の有線IP-VPNターミナルが復旧後、従来の中継回線をつなぎ、仮スタジオ機材により従来の送信所より放送開始。

FMだいが 演奏所 STUDIO



中継回線有線IP-VPNには被害は無し



送信所中継局
町付・高柴・頃藤 3箇所設けることにより全戸へ可聴を可能にしている



お問い合わせは

TEL0465-35-5150

FM小田原株式会社

250-8555 神奈川県小田原市荻窪300番地 (小田原市役所1F)

TEL0465-35-5150 FAX0465-35-4230

<http://fm-odawara.com/>